3 暮らしが輝く 支え合い活動 事例紹介

「ちょっとしたことだから」と
差し出された　いつもの手
私にとっては暮らしを支えてくれる
「大きな手」

支え合い 01

「薗地区　ごみ出し支援」

真備町の薗地区では、自分が住んでいる地域の課題や、課題解決に向けた支援の方法を検討する「小地域ケア会議」で話し合いを進め、高齢者や障がい者の世帯を対象に地域の協力者がごみ出しを行う支援を開始しました。

このごみ出し支援は、薗地区の民生委員や環境衛生協議会委員が中心となって、依頼者と支援者が相談のうえ、決められた日にごみを回収し、ごみステーションまで運びます。

「ごみ出しの日は、みんな共通だから」、「自分の家のごみを出しに行くついでだから」とごみ出し支援協力者の間野さんは語ります。

そんな自然体のやさしさが、地域にとっては大きな財産です。

薗地区小地域ケア会議の様子。ここでの話し合いからごみ出し支援が生まれました。

ごみ出し支援協力者の薗まちづくり推進協議会の間野会長（右）と田付民生委員（左）

ごみ出しの支援を受けている人以外にも、住民同士がお互いの暮らしに関心を持ち合うことが大切と間野さんは語ります。
ごみ出しの日が今日だったか不安になって、ごみを持ったまま途中で引き返そうとしている方や、自転車に積んだごみを道に落としたことに気づかずに、ごみステーションに向かっている方など、目配り気配りしながら、できることをできる範囲で手伝い続けます。

現在、ごみ出し支援を利用されている方は一人暮らしの高齢者の方が中心です。
ごみがたまってきたら支援者に電話を入れる、支援者の方から「どんなかな？」と声をかける、など日々の支援の方法も様々です。
この声のかけ合いがとても大切で、ごみ出しをきっかけにした見守り・安否確認にもつながっています。

利用者さんの声

自宅で、ご主人を介護されている谷口さん。
昨年、自宅で転倒し腰を痛めてから、重たい荷物を運ぶことが大変になってきました。介護で使用した紙パンツは、水分を含んでいてとても重くなります。なんとか、自分でごみを出そうと頑張ってみましたが、ごみ袋を引きずってごみ袋が破れてしまうこともあったそうです。
そんな時、近所の環境委員さんから、ごみ出し支援の話を聞き、週に１回ごみ出しをお願いしています。
「地域の皆さんに助けてもらっているので、私もできることでお返ししていきたい」と前向きに語られていました。

基　本　情　報

「ごみ出し支援」

日　　時／ごみの収集日
利用対象者／ごみステーションまでごみ出しをすることが困難な高齢者・障がい者世帯
内　　容／・自宅の玄関先や庭先に出されているごみを地域の協力者がごみステーションまで運ぶ。
　　・ごみを回収に行く日や、時間、ごみの置き場所は協力者との話し合いで決定。
料　　金／無料
連　絡　先／薗地区民生委員及び環境衛生協議会（薗地区小地域ケア会議）

あなたの「手伝って」が、一歩を踏み出す自信になります

支え合い 02

「コマッチング」
～「手伝ってほしい」×「人の役に立ちたい」～

「コマッチング」とは、軽度の障がいがある人、ひきこもり状態にある人が、暮らしのちょっとした困りごとを抱えた人のお手伝いをする事業です。

作業の前に利用者と職員が内容の確認を行います。家具の移動や季節ごとの模様替えなどにも対応しています。

NPO法人の職員と一緒にご自宅を訪問し、草取りや掃除、家具の移動なども行います。

お手伝いに行く人にとっては、人との接し方や清掃等の技術を体験することで、就労にむけた訓練にもつながります。

また、お手伝いの後に利用者から言われる「ありがとう」の一言が自信につながり、新たな一歩を踏み出す後押しにもなっています。

コマッチングは、NPO法人One（ワン）と中庄高齢者支援センターが協力して、中庄小学校区に住む人を対象に実施しています。

コマッチングの仕組み

サービス提供時間：第１・第３月曜日（法人スケジュールによる変更有）
利 用 料 目 安：１時間500円程度（作業時間や内容によります。まず、ご相談を）
サービス対象者：中庄小学校区にお住まいの方
サービス提供範囲：中庄小学校区
申 込 窓 口：中庄高齢者支援センター

【利用例】 庭の草取りや買い物の荷物持ち、掃除、犬の散歩など生活の中のちょっとしたお困りごとをお手伝いします。

利用者さんの声

「腰が痛くて重い物を持ったり、屈んで掃除機をかけたりなど難しくなっている。そんな時に気軽にお手伝いに来ていただけて助かっています。」

支援者さんの声

「利用者と直に接することで就労に向けた良い体験になります。また、利用者からお礼の言葉をいただくことで達成感や自信にもつながります。」

基 本 情 報

NPO法人「One」

事 業 内 容／
- ●障がいのある方の就労支援
  （就労移行支援、自立訓練）
- ●ひきこもり状態の方への居場所支援
  （ひきこもり相談支援センター）
- ●生活困窮者の就労支援

法人本部所在地／倉敷市中庄3523－１
連 絡 先／086-441-9192

地域が見守る　ひとりの暮らし
独りにさせない　ひと工夫

あすなろ会員の森永さん（右）が一人暮らしの井上さん（左）のお宅を訪問。
共通の趣味のこと、福祉サービスのこと、娘さんやお孫さんのことなど、何でも気軽に話し合えるお二人の関係は支援する人、受ける人ではなく、昔からの友達のようです。

支え合い 03

「あすなろ会」

船穂町で活動するあすなろ会は、約30年間「私たちの手で住みよい船穂町づくり」をスローガンに活動を続けているボランティアグループです。

船穂町内の一人暮らし高齢者の見守り支援や、10か所で実施している『通いの場』の運営や協力を行うなど、支え合い活動に取り組んでいます。

手づくりの鳥のぬいぐるみをプレゼント。森永さんが訪問するたびに、かわいい鳥が増えていきます。

「また来てね！」愛犬のふーちゃんと一緒にお見送り。

あすなろ会員の石井真理子さん（左端）。「北公民館サロン」を他のあすなろ会員さんと一緒に運営し、地域の「居場所」を盛り上げています。

「歩く」の先に　健康がある
「見守る」の先に　支え合いがある

支え合い 04

「歩いて見守る会」

長尾地区社会福祉協議会・長尾学区コミュニティ協議会の田邉会長は、仲間と一緒に行うウォーキングを３６５日一度も欠かしたことがありません。

毎日、約1時間をかけて歩くコースは多彩です。「いつも同じ道じゃ おえん」と語る理由は、このウォーキングが単なる健康づくりだけでなく、地域の見守りを兼ねた「見守りウォーキング」だからです。

夕方頃、外で遊ぶ子どもたちに「そろそろお帰りぃよ」と優しく声をかけたり、地域の一人暮らし高齢者の家に変わりがないかなどを、愛情いっぱいのまなざしで見守っています。

「今日も会えた！」子ども達もいつものおじちゃんとおばちゃんの顔が見えると安心します。

別の毎日ウォーキングを行っている男性グループと情報交換。地域の情報がここでつながります。

自分で出かける幸せを地域みんなで支えるしくみ

支え合い 05

「福祉無償運送 乙島ボランティアらんらん」

乙島小学校区は、山坂と入り組んだ細い道が多い地区。自宅から公共交通機関の乗り場まで出かける手段がないため、「買い物や通院など移動手段に困る」という大きな生活課題がありました。

このような課題の解決に向けて、ＮＰＯ法人かめかめ福祉移送が、試験的に移動ボランティア「乙島らんらん」を運行されていましたが、いつまでも支援を継続することは困難です。

その間、小地域ケア会議で研究や話し合いを重ね、地区社会福祉協議会、コミュニティ協議会、地域住民が担い手となった、外出支援サービスとして運行を続けていくことになりました。

「外出支援」の枠にとどまらず、運転ボランティアなど、シニア世代の活躍の場としても期待が寄せられています。

平成29年７月４日　出発式セレモニーの様子。地域の思いを乗せて、「乙島ボランティアらんらん」が走りはじめました。

移動の問題を地域全体の問題ととらえて、住民・関係機関が一緒になって支援の在り方や具体的な方法を考える会議を重ねました。

ボランティア運転者の滝澤一敏さん「自分のボランティア活動が誰かの暮らしのお役に立てていることが一番のやりがい」と話されました。

「らんらん」の支援の良いところは、車での移動をサポートするだけでなく、おでかけをする際のちょっとしたお手伝いを柔軟に、気軽にサポートする点です。
買い物帰りの重たい袋は運転ボランティアさんが一緒に運びます。
ついでの支援がとてもあたたかく、なんとも心強いです。

基　本　情　報

福祉無償運送「乙島ボランティアらんらん」

運　行　日／週２回（火曜日・金曜日）
　　午前と午後１日２便運行（８：00～18：00）
利用対象者／乙島小学校区の住民で
　　高齢者及び障がいのある方
運　転　者／ボランティア運転者が対応
運 行 範 囲／旧玉島区域全域の病院やスーパーへの送迎
利　用　料／ガソリン代実費のみ
連　絡　先／乙島小学校区社会福祉協議会

利用者さんの声

年齢のことを考え、運転免許証を返納しましたが、自宅が高台にあり買い物もタクシーを利用していました。そんな時「らんらん」の話を聞き、いつも利用させていただいています。私たちにとっては無くてはならない支援です。

「ただいま」って言える場所 地域にいっぱいあればいい

支え合い 06

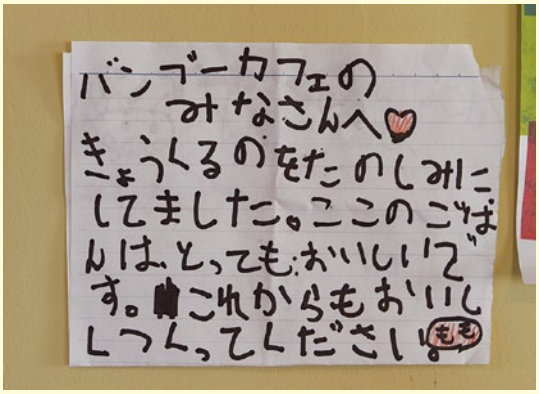
「みんなの食堂」

「NPO法人ファミリーステップ」が月に2回開催する「みんなの食堂」には毎回たくさんの参加者の笑顔と、美味しい夕食が並びます。

家族がいても、仕事や家庭の事情で一緒に食事を摂ることが少ない。そんな「孤食」が増えているなか、月に数回でもみんなが集って、楽しく食卓を囲んで笑顔を分け合える役割は、きっと地域でもできるはず。

地域のなかで、「おかえり」って言ってもらえる場所や「ありがとう」、「ごちそうさま」って言える場所がいっぱいあることは、みんなにとってうれしい贈り物になります。

ボランティアで手伝いに来てくれる子育て世代も頼りになる協力者です。



「みんなの食堂」に来るお客さんからのファンレター。壁に貼っていつも読めるようにしています。

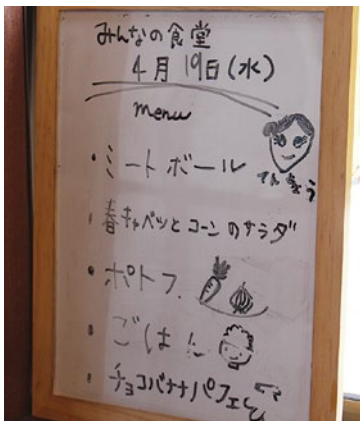
「みんなの食堂」の会場となるBamboo Caféは、玄関もキッチンも、おしゃれでかわいい飾りが施されています。
カフェをオープンするにあたり、会場をリフォームしようとしましたが、予想以上に費用がかかることが分かりました。インターネットを通じて、助けを求めたところ、大工さんやタイル職人さんなどが、ボランティアで力を貸してくれたそうです。
今でも、「みんなの食堂」を応援するため、たくさんの方が、食材やお菓子の寄付をしてくれているそうです。

食事のあとは、宿題をする子、本を読む子、みんなでゲームをする子など様々です。
その様子をおとなが優しく見守ります。
「みんなの食堂」は食事を通した世代がつながり合う場所になっています。

基　本　情　報

「みんなの食堂」

日　　時／毎月第１・第３水曜日
　　17：00～20：00（うち18：00～19：00が食事）
会　　場／Bamboo Café（倉敷市福田町古新田802-11）
内　　容／こども食堂（こどもを中心とした多世代交流の場）
参加対象者／どなたでも参加可能。小学生だけの参加も可能だが、
　　必ず保護者のお迎えが必要。
料　　金／こども300円・大人500円
連　絡　先／086-451-5920（NPO法人ファミリーステップ）



本人も家族もご近所さんも地域丸ごと惹きつける魅力

支え合い 07

「認知症カフェ 房舎（ぼうしゃ）」

認知症カフェは、認知症になっても安心して地域で暮らせる居場所づくりと支援の和を広げるための取り組みです。

中洲小学校から歩いてすぐの住宅地の中にある認知症カフェ「房舎」は、定休日の水曜日を除いて、ほぼ毎日開いています。カフェの中は、ご飯をゆっくり食べながら落ち着いて過ごせる優しい雰囲気に満ちています。

下校時刻になると小学生が下校の途中にカフェを覗いて「ただいま」と一言。こちらのカフェを運営している武南さんも「おかえり」と返事をします。時には「今日こんなことがあってね・・」と話が続きます。

地域に溶け込み、本人も家族もご近所さんも地域丸ごと、世代をこえて人を惹きつける魅力のある認知症カフェです。

地域でつながりのあるお寺から「さらし」をたくさんいただいたので、お返しをされるとのこと。「さらし」を「てぬぐい」に作り替え、お寺を参拝された方へのお接待。布に描けるクレヨンやペンを使った、デザイン入りの手作り「てぬぐい」です。

支え合い活動担い手の養成講座（生活・介護支援サポーター養成講座）で受講生が支え合い活動をしている団体や施設への訪問をするとき、人気なのが「房舎」です。武南さん自身が認知症になったご両親の介護をされた経験があり、日々の介護の中で工夫をしていたことや心がけていたことなどを教えてくれます。この日も、受講生が「介護をする際の心の持ちようなどヒントをもらいました」と話をする中で得たものがあった様子。

道路から見ると、ひっそりとたたずむカフェのように見えますが・・・（写真右ページ）
中に入るとにぎやかな話し声や笑い声が響きます。（写真左）この日は地元の学生や大学の先生、地域の方々が武南さんからカフェを始める前のこと、このカフェを始めたときのこと、地域のこと、お客さんのために用意しようと思っているてぬぐいのことなどを教えてもらっていました。

基　本　情　報

認知症カフェ「房舎」

ＯＰＥＮ／10：30～18：00
定　休　日／水曜日、第２木曜日、第４金曜日
場　　所／倉敷市水江1586－140
連　絡　先／086－465－9374
携　　帯／090－5703－0530
※ランチは前日までにお電話をください。

認知症の人の介護の大変さは、経験した人でなければわからないものがあります。同じ経験をした者同士だからこそ、悩みを受け止めたり、共感したり、支えあう、その場所として房舎を作りました。

武南（たけなみ）　恵美子

認知症カフェを開くために改装された住宅は縁側から靴を脱いで上がるスタイル。高齢者、子ども関係なく「いつでもおいで」と言われているようです。

頼もしい近所のじいじとあったかい近所のばあばに出会う場所「地域っていいな」をママの合言葉に

支え合い 08

「くらしき子育てネットワーク はぴぱる」

「はぴぱる」は、地域の中で世代や立場の垣根を越えて、出会い、支え合えるきっかけをつくりたいという思いから結成されたグループです。

元々は、転勤族の多い水島地区のお母さんが中心となって活動が始まりました。今では市内全域にメンバーが増え、「はぴぱる交流会」と呼ばれる世代間交流を企画しています。また、地元の保健師さんや高齢者支援センターと協働でサロンに参加したり、デイサービスセンターの利用者と交流する出張型サロンにも参加をしています。

「子育て真っ最中のお母さんも地域づくりを応援したい」という思いから始まったこの活動は、近所の、元気なじいじと優しいばあばとの出会いを生み、お互いが「頼り」「頼られる」自然な関係が広がっています。

広い体育館で、七夕飾りを作りました。織姫と彦星の衣装を着てみんなで記念撮影。

「はぴぱる」の取組

「はぴぱる交流会」の開催

日　　時／毎月１回（日時はその都度決定）
会　　場／くらしき健康福祉プラザ
　　（倉敷市笹沖180番地）
　　その他、各地域で交流会を開催
内　　容／三世代交流会（季節ごとのイベント・
　　ピクニック・運動会等）
参加対象者／地域の高齢者・親子
参　加　費／こども：無料・大人200円

「はつらつサロン」への参加

日　　時／毎月第２水曜日　10：00～12：00
会　　場／ＪＦＥ労働組合ふれあい会館
　　（倉敷市鶴の浦２丁目55-35）
内　　容／三世代交流サロン（調理実習・食事会・
　　体操・レクリエーション等）
参加対象者／地域の高齢者・親子等
参　加　費／100円（実費として）

出張型サロン「みどりのかぜ」への参加

日　　時／月２回程度開催　10：00～16：00
会　　場／デイサービスセンターみどりのかぜ
　　（倉敷市福田町古新田814）
内　　容／利用者さんとの世代間交流（食事・体操・
　　レクリエーション・絵手紙・手芸等）
参加対象者／はぴぱる会員
定　　員／５名程度
参　加　費／350円（昼食代）　100円（おやつ）
　　※その他、行事等の材料代

はぴぱる「キーパーソンの会」

「はぴぱる」には現在５つのキーパーソンの会があり、仲の良いお母さん同士の「女子会」が定期的に開催されています。
「キーパーソンの会」は単なる女子会ではなく、今後の世代間交流の企画を行うグループや、イベント準備のための衣装などを手づくりするグループなど、それぞれが特技や役割を担っています。

地域を耕し　つながりの種を植え
支え合いの花が咲く

支え合い 09

「ふれあいファーム　水車の里」

「休耕地を活用して、住民がふれあう新しい居場所がつくれないか。」

菅生学区で、小地域ケア会議を中心にそのような協議を重ね、誕生したのがコミュニティ農園「ふれあいファーム 水車の里」です。

農園のある祐安地区は田に水を送る水車が並び、それが菅生学区の名所の一つとなっています。

地域の中から参加者を募り、野菜や花を育てながら情報や笑顔が通い合う場となっています。参加者や関係者が集まって定期的に行う草刈りも、みんなが顔を合わせる大切な機会。

収穫した作物や持ち寄った料理をみんなで食べる交流イベントも大盛況でした。

第１回目の交流会は、農園に食材や調理器具を持ち寄って、みんなで豚汁を作って食べました。
「次はバーベキューがしたいね」、「寒くなるからすき焼きもいいかも」など夢がどんどん膨らみます。

「豚汁を何杯食べましたか？」という質問に対してこの指の数！屋外でみんなで作るとそれだけで、なによりのごちそうになるんですよね。

かわいいお客さんも来てくれました。三世代交流の場としても、農園の今後に期待です。

農園の隅に置いてあるタンスには草刈りをした後の雑草がたくさん！このタンスの中で雑草を有機肥料にするそうです。
その他にも、もらってきた靴箱を再利用した道具入れなど随所に工夫がみられます。

基　本　情　報

「ふれあいファーム水車の里」

開　催　日／農園は常時開放
場　　所／倉敷市祐安の農園
内　　容／・コミュニティ農園での作業・交流
・共有地の草刈り
・交流イベント（調理・食事会等）
参加対象者／菅生学区在住の高齢者中心
連　絡　先／菅生学区小地域ケア会議

定年から始まる地域デビュー
ソロ活動からグループ活動に

支え合い 10

「ボランティアグループ 同京グループ」

ボランティアグループ「同京グループ」は、ボランティア活動を通じて、支え合いの輪を広げることで、住みよい地域づくりを目指しています。

自然を守るために始まった活動が輪を広げ、今では企業の協力も得ながら、約150人のボランティアが登録しています。

登録者の中には定年退職された後の活動の場として在職中から登録し、活動している方もいます。

活動内容は高齢者、障がい者の福祉施設での活動から地域づくりの活動まで幅広いのが特徴です。

グループの中からは、「楽しいし元気になる」「同京さんから依頼の電話が待ち遠しい」との声もあがっています。

旧吉田彦七邸（水島西栄町１－18）は地域住民と同京グループなどが協力して、リノベーションを行い、カフェになりました。カフェが休みの日には地域住民の集いの場として解放されています。

水島障がい者支援センターはばたきのクリスマス会では女性陣が参加者と一緒にケーキの盛り付けを楽しみ、一緒にいただきました。男性陣はサンタやトナカイの衣装で、ダンスやプレゼント交換を盛り上げました。

女性の活躍が多い託児ボランティアでも活躍できるよう、「育爺ボランティア養成講座」に参加しました。受講後には託児のボランティアにも積極的に参加されています。

基　本　情　報

「同京グループ」

活 動 内 容／福祉施設や地域のイベントでのボランティア活動

連　絡　先／JFE労働組合ふれあい会館内
（倉敷市鶴の浦２丁目55－35）
080－6349－8233（同京）

イベントで欠かせない裏方役もこなします。寒い中、駐車場の誘導係を行いました。色々な形で、自分にできることで地域に貢献しています。

いつの時代も男たちは「秘密基地」にあこがれる

支え合い 11

「原田洋治ワイワイサロン」

広い畑の真ん中の趣ある小屋から元気な笑い声が聞こえてきます。

原田さんの畑の小屋に自然に集まる居場所。元々は、名前なんてありませんでしたが「活動を紹介するんなら名前ぐらいは決めとくか」ということで、すぐに「原田洋治ワイワイサロン」と名づけられました。

野菜づくりと土いじりという共通の趣味を持つ男性中心のメンバーが、毎日集い、手づくりの「囲炉裏」のようなテーブルを囲み、作物の出来栄えや、日々の暮らしぶりについて語り合います。

みんなの手が加わり、作り上げた自由で快適な空間はまさに「秘密基地」。男心をくすぐる魅力にあふれた居場所です。

小屋の中には棚が作られ、コップが置かれています。
自分たちの居心地の良いように工夫されています。

取材中に、ご近所さんがやってこられ、「玉ねぎの苗ねぇかなぁ？」「分けたげらぁ」こんな自然体な支え合いの関係がとても素敵だと感じるのです。

男の隠れ家アイテム②

「囲炉裏テーブル」

「寒い季節には暖かい部屋で、温かい飲み物が欲しい」との思いから、こたつの中心部を円形に切り抜きすっぽりとストーブを取り付けて囲炉裏のような、テーブルを作り上げました。作り上げる楽しみと居心地の良さが、さらに男心をつかみます。

男の隠れ家アイテム①

「クーラーボックス水道タンク」

会場には、水道が通っていません。みんなでアイデアを出し合って、クーラーボックスに水を貯めて、そこから水が流れるように蛇口も取り付けました。
これにより、いつでもお茶やコーヒーが飲め、後片付けもできるようになりました。

みんなの居場所を優しく見守る原田さん（右）

基　本　情　報

「原田洋治ワイワイサロン」

開　催　日／毎日午前中
場　　所／原田さん所有の小屋（玉島柏島）
内　　容／・おしゃべり
　　・野菜づくりの情報交換
参　加　者／男性中心のメンバー10名前後
参　加　費／無料

「食」と「集い」の楽しさ発信中
新たな地域交流の場に

支え合い 12

「MODS KITCHEN（モダンキッチン）」

モダンキッチンは、地元の食品製造会社が開催する地域のふれあい食堂。平成29年9月の敬老の日に合わせて開催され、その後も毎月1回のペースで開催されています。

「食品を扱う企業として、何か地域に貢献できないかと思っていました。孤食の問題が取りざたされるなか、低価格で食事を提供し、みんなが集える場を作ることで、高齢者の閉じこもり防止や世代の垣根を取り払った交流に、つながるのではないかと考えました。」と社長の垣本さんは言います。

参加者からは「1人で食べるより、皆で集って食べる方がおいしい。」「こういった場所で顔見知りになれば、近所で会った時に声をかけあえる。」などの声も聞かれます。

地域の「あったらいいな」が形となって、素敵な居場所となっています。

12月は事務所改築中のためテイクアウトのみでした。
サンタさんからのお弁当の贈り物に皆さん笑顔でした。

10月はハッピーハロウィン♪
食事と交流スペースの様子です。
将来的には地域の方々と協力して健康相談や介護相談にも対応できるイベントにしていきたいとのこと。

基　本　情　報

「モダンキッチン」

日　　時／毎月１回　11：00～13：00
会　　場／ミールオンデマンド内
　　（倉敷市児島下の町10丁目376－132）
内　　容／食事会を通した地域交流
参加対象者／地域の高齢者を中心にどなたでも
参　加　費／200円（１食）
連　絡　先／086-486-0035

かつては源平合戦の激戦地
八百数十年経った今
ここは　支え合いのモデル地区

支え合い 13

粒江学区の支え合いマップ

粒江地区は、種松山の北の麓に、新田開発により開かれた地域です。

その歴史は古く、縄文中期の船元貝塚をはじめ源平の古戦場で名高い浮洲岩・先陣庵等多くの遺跡があります。

粒江地区社会福祉協議会が住民・関係機関と策定した小地域福祉活動計画や、定期的に行う小地域ケア会議、さらにNPO法人の取り組み等、これまで築いてきた地域の文化と意識をつなぎながら、源平合戦の激戦地は今、支え合いのまちづくりが進められています。

1 地域交流スペース　うきうき館

地域交流スペースとして、あそび・まなび・つどい・わらい・自由に過ごせる場として開放しています。地元の社会福祉法人の支援により、民生委員さん所有の民家を借り、スロープや給茶機なども設置されており、ますます活用の場が広がることが期待されます。

2 うきうきオレンジカフェ

認知症の方を支える地域づくりに向け、うきうき館で、認知症カフェをオープンしました。写真は立ち上げに向けた作戦会議の様子。

4 ちょいワルおやじクラブ

男性中心の居場所。ちょいワルな男性たちが、秘密基地で「地域のためにちょっと良いことができないか」悪だくみをしています。その活動の魅力と居心地の良さに女性の会員も増えています。

3 うさぎカフェ

障がい児の保護者による保護者支援団体、ＮＰＯ法人ペアレント・サポートすてっぷが運営する居場所カフェ。心づくしの手づくりメニューを提供するだけでなく、スタッフが発達に関する個別相談も対応し、心が軽くなる空間を提供しています。
※うさぎカフェの利用対象は、子どもの発達に不安のある保護者や関係者となっています。

6 お困り高齢者お手伝い隊

住民同士でできることを支え合う。
そんな仕組みの実現に向けて、「お困り高齢者お手伝い隊」を結成しました。
住民の中から支援者となる隊員を募り、ごみ出しや庭の草取りなど、一人ひとりの暮らしに寄り添ってお手伝いします。住民を支える活動でありながら、自分の力を地域のために発揮する活躍の場でもあります。

5 ふれあい赤ちゃんサロン

赤ちゃんとお母さんがほっとできる場所を作るため、毎月1回、愛育委員さんと民生委員さん、更生保護女性部の皆さんが中心となって、ふれあい交流、世代間交流の居場所を開催中。